

子安地藏尊大法会

7月24日(金) 午前8時より



ろくじぞう

ろくどう しゅじょう 六道の衆生を
すく じぞうそん 救う地藏尊
うちふる しやくじょう うち振る錫杖
こくう 虚空にみちて

轉法輪

五は琢磨によつて
照車の器となり
人は切磋を待つて
穿犀の才を致す
弘法大師

平成二十七年六月二十八日発行
発行所 犬飼山轉法輪寺
〒六三七一〇〇七二
奈良県五條市犬飼町一二四
電話〇七四七二二一四四〇三
FAX〇七四七一五一四七一七
編集発行人 桑山聖淳
印刷所 森本印刷工業所
和・伊都郡かつらぎ町妙寺

梅雨明けの暑さひとしおでございます。

来たる七月二十四日(金)は、お地藏さまの法会を行います。お地藏さまは六道の能化(先生)と言い、今もこれからも私たちを見守り、導いて下さる仏さまです。酷暑の折ですが、皆様お誘い合わせのうえ、多数お参り下さい。

地藏尊法要

地藏堂にて 午前八時

永代供養水子霊の御回向

大教室にて 午前九時半

水兒幼没霊供養

先祖諸霊供養

安産子授・子育て祈願

千灯供養境内にて 午前十一時

昼食接待

地元のごどもたちのダンスステージ

一生懸命練習しています！

見に来て下さいね！

犬飼山轉法輪寺

☆地藏尊シャトルバス運行(橋本駅～お寺)
7月24日 橋本駅前発(7:45. 8:45. 9:45)

お地蔵さま



轉法輪寺住職 桑山 慈紹

お釈迦様が入滅されてより、五十六億七千万年のち弥勒菩薩がこの世に出現なさるまでの長い間、私達生きとし生けるものすべてを、いつも守り助け下さる、誠にありがたい仏様です。このお地蔵様のお慈悲が絶大なることを「地蔵本願経」に次の如く説かれ

ています。
「その時、堅牢なる地の神が仏に申されました。

世尊よ、この地蔵菩薩は人間の世界に大変深い因縁があります。かの文殊菩薩や普賢菩薩、観世音菩薩、弥勒菩薩のような尊き方々もまた、百千の姿に身を代えて迷える者をお救い下さいますが、その願いには、なお際限があるのです。しかし、この地蔵菩薩は、迷える世界の一切のものを教化し救済せんとする誓願の数は、まさに千百億のガンジス河の砂ほど無量で限りがありません。ですから、この有難いお地蔵さまを心より敬い、それぞれの土地の清浄な場所に土や石、竹、木などでお堂を作り、丁寧に地蔵尊を画き、あるいは木、石、金、銀、銅、鉄等で作り、香を焚き、供養礼拝、讃歎するならば、この人は、作物は豊かに実り、家は永く安泰で、先祖はすべて救われ成仏し、生きているものは延命し、求める所はかなえられ、水火の災いなく、つまら

ぬ迷いがなくなり、悪い夢を見ることなく、いつも神仏に護られ、たびたび良い因縁にめぐり会うことができるであります」と説かれています。
では、どうすれば地蔵様により早くお導き頂けるのでしょうか。その一方法を左に記してみましよう。

《地蔵尊念誦私次第》

地蔵尊に向いて合掌し三返礼拝し座す。

※供物、ローソク、線香、花、お茶、御飯等 準備、袈裟、念珠等

- 合掌礼拝 三返
- 懺悔 一返
- 三帰 三返
- 三竟 三返
- 十善戒 三返
- 発菩提心 三返
- 三摩耶戒 三返
- 開経偈

毎月21日は月並御影供(9時半～)・28日は不動尊護摩供(9時～)です。
どなたでもお気軽にご参拝くださいませ。入退出自由、昼食お接待です。

輪 法 轉 (3)

○般若心經 一返

○観想 眼前の地藏尊に想を深くこらす。

○念誦 地藏尊ご真言

オンカカカピサンマエイソワカ

百八返(乃至千返)唱える

念珠で数える

南無本尊地藏尊、六道に沈む

我等をば、大慈大悲の御心で、

萬徳円満なさしめ給え

○光明真言 七返

○御宝号

南無大師遍照金剛 七返

○祈願文

○回向

※詳しくは、仏前勤行次第を参照下さい。



古い墓一寸外には

骨壺が!

轉法輪寺住職 桑山慈紹

A市にお住いのBさんが、墓石建立のためお伺いに御来山されました。北東向きの墓地を最初東向きに希望されました。同じ大きさの墓地を四五度位回転させる計画です。そうすれば、古墓地に一部かかってしまいます。よって私は古墓の土を六尺入れ替えをすゝめました。すると数体の無縁仏の骨壺と墓石が出土いたしました。Bさんは大変驚かれ恐れて計画を南向きに変更されました。しかしその古墓からも無縁の骨壺が出土しました。よって新しい墓地を求めて更に西方にずらせ、ようやく墓地造成工事が完成し開眼式が行われました。

墓地の造成は、新しい墓地の使用が最良です。万一、建立された墓石の下に他家の無縁仏の骨や墓石がある場合、薬で治らぬ病気が事故死する様な悪因縁を造ることになります。

但し、どうしても古墓を使用される場合、墓地内の土を六尺入替えると共に、下より出土した骨や墓石を無縁如来塔に合祀し、懇ろに住職、関係者にて供養することが必要です。

無縁仏とは厄介な仏ではありません。今でこそ身寄りのない仏様ですが、生前この地方にご縁のあった方々で、どの様なご恩がある方が分かりません。よって大切にご供養し記ることにより、その町村は発展、安泰となり栄えると伝えられています。



水子の個人供養を受け付けています。毎日9時、11時、14時、16時からお勤めを致します。

生かせいのうち

【第四十六話】

名誉住職 桑山聖規



我等は佛の子であると言ふ事は前々よりお話をしてきました。佛は自己の心身に元よりあるのもですが、信仰心の無い人は眠っていて活動しません。

心身の奥にある「宝庫」を開く鍵を覚り、秘密のとびらが開く話をいたします。

やみや病気や災難も消えます。運の悪い人は必ず良い方に向いてきます。

まずは佛に帰依し、佛の教えに帰依し、教えを説く僧に帰依することです。次に心身を清浄にして佛の前に合掌礼拝し、懺悔文を唱える事。

私は幼少の時より体が弱く、青年期になっても肺を病んで胃腸も悪く、長寿の出来る様な身体ではありませんでした。その私が今年で数え九十二歳まで生かされて、毎日信者の方々の健康と開運をお祈りさせていただいている

『我昔所造諸悪業 皆由無始貪瞋痴 従身語意之所生 一切我今皆懺悔』

のです。私がいつも心に留めていることで、みなさんにも実行して頂きたいことを、もう一つお伝えします。

自身が過去に於いて、身と口と意より作ったもろもろのすべての罪を懺悔します。お許しください、と心より念じた後、

「今日だけは怒るな、心配するな、みんなに感謝して、修行に励め、人に親切に」

『我は御佛の子なり大日如来の子なり』と三回、心より唱えて信じて後に

の五つの教えです。これは誰にでも出来ることです。これが「生かせいのうち」

『オン アビラウンケン ソワカ』

の一番大切なことです。また生きていく間に佛になれる、即身成仏の秘密の

この御真言を一心不乱に念じて唱えていますと、秘密のとびらが開いてきます。毎日百返ずつ、念じて下さい。自己の心中の仏性が輝いてきます。自分の過去の罪障が消えてきます。罪が消えれば悪い因業も消えます。身心のな

教えです。

南無大師遍照金剛

合掌

心に宝を―16―

「父の手をひいて」

平成二十七年 水無月



橋本市

宝形山 地藏寺

井上 覚善

先日、久しぶりに故郷の両親と親戚が数名、熊本から出てきてくれました。今年が高野山開創千二百年の年で、是非とも高野山に詣で、お大師さまに手を合わせたいとのことでしたので、二泊三日のプランを立て、案内役で私が御供させてもらう事になりました。

先ず初日は、新大阪駅へレンタカーで迎えに行き、一年ぶりの再会に満面の笑顔で目を細めてくれる両親・親戚らと挨拶を交わし、数年前に脳梗塞を患い日常会話と歩行が少し不自由になった父の手をひいて駐車場の車へとゆ

っくりゆっくりと歩く。その時心中に去来したのは、「あれだけ元気だったのに、大分弱ったなあ…。苦労かけたからなあ…。心配ばかりかけたからなあ…。六人もの子育ては、さぞ大変だったやろうなあ…。」

という思いばかりでした。そして同時にこのような機会は、次に元気で逢える保証も、出来る保証も無いわけですから、「今出来る、精一杯の事をしなくては。」と強く思いました。

それから車に乗り込み一路和歌山へ。最初に当山に立ち寄って一服してもらい本堂にて法楽太鼓にて報恩感謝の心経を誦誦して、お大師様のおわします高野山へ。

そして先ず、百七十二年ぶりに再建された「中門」をくぐり壇上伽藍へ。金堂を始め諸堂を参拝し、千二百年前に高野山をご開創なされたお大師様の熱き思いと御苦勞に深く頭を垂れ、宿坊「大円院」へ。夕食までの時間にお風呂へ入り、父の背中を流しながら「子供の頃、あれだけ広く大きかった背中

が、ホンマに小さくなってしまったなあ…。少しでも長生きしてほしいなあ…。」「絶対に口には出さないけど、本当は跡を継いでほしかったやろうなあ…。」と思うと涙が止まらなくなりました。それから大円院さまからのお接待で一番上等の食べきれないほどの豪華な精進懐石に舌鼓を打ち、昔話に花を咲かせ、久しぶりの親子団欒のひと時を過ごす事が出来ました。

二日目は、父のたつての希望で、奥之院の参道を「何とか一ノ橋から御廟までがんばって歩きたい。」というので、また手を引きながらゆつくりとかみしめるように歩を進め、途中、かなり足が痛くなってきた様子でしたので度々休憩しながら、何とか御廟まで辿り着き、お大師様へ親子揃って手を合わせ、この上ない、有難いお参りをさせて頂くことができました。その後は女人堂、苜蓿堂、靈宝館、金剛峯寺などを巡り二泊目も大円院へ。三日目の最終日は、当初は新大阪直行の予定で

お子様の撰名を致します。出来るかぎりご両親の希望に沿いながら、姓名学に則った良名を選ばせて頂いております。

したが、前日行った霊宝館に開創記念の年ということだ。沢山の「狩場明神さま」のお軸が展示してあったので、お大師さまと狩場明神さま御邂逅の御寺であります。轉法輪寺さまへは「何とか時間を潰して参拝させていたただかなくては。」と思い、高野山を早めに出発し轉法輪寺さまへ。そして最初はお参りだけと思っていたのですが、突然の参拝にもかかわらず、ご住職様と若奥様から、懇ろなるお接待を頂戴し、短い時間ではありましたが大変有難く楽しいひとときを過ごす事が出来、最後にまたひとつ、かけがいのない素晴らしい思い出を両親にプレゼントさせて頂く事が出来、法悦極まる二泊三日の旅の最高の締めくくりとなりました。

最後に、今回の旅を振り返って思う事は、今の自分があるのは、父母、ご先祖さまのお蔭であり、お大師さま、狩場明神さまを初め、神仏の御加護とお導き、ご縁ある一切の方々のお蔭であると、再確認させて頂いた様に感じます。

す。そして同時に、これから先、ご縁ある方々に少しでもご恩返しが出来るように、喜んで頂けるように、更に精進努力していかなくては、と思いましたが。

合掌

夏越のはらい

不動護摩

キユウリ加持



七月二十八日(火)

朝九時より

キユウリを自分の身体に振り替え、病や災難を封じ込める秘法です。夏の暑さに負けずに暮らせるよう、ぜひご参拝ください。

本年は七月の不動護摩供と一緒にいきます。お間違えのないよう、よろしくおねがいします。

当日受付は十時までとさせていただきます。

秋の四国巡拝のお誘い

平成27年10月29日(木)～11月2日(月)

4泊5日・土佐路の旅

<今回の行程>

24番最御崎寺から49番浄土寺、番外鯖大師・十夜ヶ橋を参拝予定

<参加費用> 71,000円

春秋年2回、全4回の行程で満願です。どこから巡拝を始めて頂いても結構です。お気軽にお問い合わせください！



毎月第二金曜日の午後7時より、「お経を習う会」を開いています。どなたでもご自由にご参加ください。

行事報告

お世話人研修旅行

去る五月二十八・二十九日

本年度の研修旅行は奈良県十津川村へお参りしました。玉置神社・谷瀬のつり橋・民俗資料館をまわり、みな和やかに親睦を深められたことと思います。

平成二十三年の台風によって大きな被害を受けた十津川村ですが、本格的に復興が進んでいました。五條からの道も随分と良くなっています。今回、現地で被害の様子や復興の道のりを聴き、災害と共に暮らしていく住民の姿勢を学ぶことが出来たように思います。



玉置神社参拜

淡路七福神参り

去る六月十九日

好天のなか、三十八名の同行の皆さまと淡路島の七福神をお参りしてきました。福を呼ぶのは「笑い」からと、各お寺ではたくさん笑わせてもらいました。「無財の七施」の一つにも「顔施」に笑顔を向けることがあります。

ただ笑うだけでも、少し世の中を明るく出来るのですね。淡路で頂いた「笑顔の輪」を広げていきたいものです。



笑う門には福来たる！

子安地藏尊のお願い

① 水児に奉納下さる赤ちゃんの新しい着物や服、下着、または人形、玩具、菓子等は、七月二十一日(火)までにお願ひします。

② 水児供養を希望される方は、同封した供養申込書にてお申込み下さい。当日でも受付ます。(一霊五百円です)

へご奉仕のお願い

暑い時ですが、世話人様はじめ信者の皆様のご協力をお願いいたします。

① 七月二十三日(木)、掃除、のぼり立て、ちようちんつり、飾りつけなどの諸準備。

② 当日七月二十四日(金)早朝より。

そでなし白衣・うで念珠、または、ゆかたでお手伝い下さい。

③ 七月二十五日(土)、あとかた付け。

④ 七月三十日(木)、高野山(よだれかけ付け)参り

毎月三回不定期で「タイコの会」を開いています。お経を唱えながらタイコを叩いてみませんか？

四国八十八カ所

歩き遍路の

ちよつといひ話

松山市

山本益男

歩いているときは

いろんな事に出会うのよ……

その17

さて前号の続きです。別格の慈眼寺に御参りしたため「金子や」さんで二泊することになりました。昨日と当然宿泊者は異なるのですが、今回のお遍路では四国霊場開創千二百年のせいでしょうか、道中でも外国人のお遍路さんをよく見かけました。今日宿泊されている海外の方は二人、日本人のお友達と思われる方の三人で車による札所巡りのようです。日本食に馴れているのか器用にお箸を使い夕食を食べておられました。食後、ちよつとその三人

の方々とは話しする機会があり、その際、外国人（この方々はフランス人）には我々日本人なら本当に当たり前と思えることが、実は海外ではとても信じられない非常識な行為であるというお話を書かせていただきます。

その外国人の方々が始めて、まず驚いた事ということは、トイレや洗面所での手を洗うという仕事だそうです。日本人なら当然手を洗う際は、蛇口をひねって水を流しながら手を洗いますが、その行為が信じられないと言うのです。では、日本人以外の人はどうするかというと（中国、韓国などアジア系の人々の習慣は分かりませんが・・）、一端手洗い桶（ポウル）に水を溜めてから、溜まった水の中で手を洗うというのです（顔はそのようにして洗わないことありませんが・・）。日本で暮らしている私は蛇口から流れる水で当然のように手や顔を洗っていますが、この習慣はもし海外に行ったら絶対御法度になるので止めた方が良いでしょう。特に石油国で

あるアラブ諸国では、水は非常に貴重なもので、流しながら手や顔を洗うという作法はもったいない行為・習慣であり、それこそ非常識な行為・習慣になるらしいです。更に外国人の方々には、その習慣流れる水による作法は、お寺のお手水場でも見ることができるといいます。わざわざひしゃくで水をすくい、水を溜めてやっぱり流す（清める）という行為がとてもこの方々には不思議に見えるらしいのです。まあ習慣というのは合理性で判断できるわけではありませんが、この方々とちよつと話をしただけでも日本人の文化・風習・習慣を改めて客観的に考えさせられることになりました。しかしながら、この「手を洗う」という習慣には日本人の太古からの遺伝子的なものが根底にあるように思えます。私なりの考えですが、日本という国は国土が狭く、その上地形的には急峻であるため川は雨が降れば当然のように一気に海に流れて行きます。それこそ海や湖のような中国の大河やライ

御詠歌をお唱えしませんか？お寺での法会のほか、本山での行事などの参加機会もあります。お気軽にお問い合わせください。

輪

法

轉

(9)

ン川とは大きく流れ方が異なります。日本の川は常に速い流れがあるわけですから、流れに手を晒すというその習慣が、現代も蛇口からわざわざ水を流して流れる水によって手を洗うという日本人には至極当たり前の習慣（流れるもので清まる、禊のような）となつて日本人に根付いているのではないかと思ふわけです。日本という国土に豊富で清らかな水が至る所にあるからではないか、と個人的な意見を述べさせて頂きました。どれくらい伝わったかは分かりませんが、一応頷いていたのでもちよつとはこの日本の不思議な習慣を理解して頂く参考にはなつたかなと思います。お酒はないものの他に話は日本文化に至る（神社の鳥居の話など）まで一時間近くに及んだのですが、あまり長く夕食後の雑談をしているわけにはいかないので終了のゴングとあいなりました。

翌日は天気予報通り朝から大雨。「一に焼山、二にお鶴、三に太龍」といわれる遍路ところがしのいわれのある今日の難所、雨の日の山越えはあまり気が進みませんが、これも御修行です。とりあえず今日はこの天候ですので標高三十メートルの金子やさんから三キロ先の鶴林寺（標高差五百メートル）、さらに鶴林寺へ太龍寺までは七キロ（標高五十メートルまで下つて、また五百二十メートル）、坂口屋さんまで四キロ（標高八十メートル）と二山を越えなければならぬため、とにかくお天気任せの計画となりました。一回目と同じ工程になってしまいました。本来であれば二回目ということもありますので、天候がよければ平等寺まで行きたいところでしたが、悪天候時に無理計画は禁物です。歩き遍路はとにかく自己責任ですので、なるべく人様に迷惑をかけることが鉄則です（だと思つていきます）。

朝七時半に出発して、鶴林寺には九時に到着、太龍寺にはお昼に到着、しかしこのまま降りては坂口屋さんあまりにも早く到着するので、雨の中太龍寺でしばし時間つぶしをします。自分にご褒美としてドラゴン手ぬぐいを購入したり、龍の描かれた天井画や北の舎心殿（よく雑誌などに掲載されている御大師様は南の舎心ヶ嶽です）など次の札所を目指す時はおそらく絶対に行かない境内中をそれこそ隅々まで散策しました。このように歩き遍路にとつて雨の日は特につくづく泣きたくなるくらい「お修行」を強く感じたりします。またこういう時こそ、同行二人、御大師さまと一緒に強く感じることが出来るのです。次回は、平等寺からです。それでは次回までごきげんよう。

合掌



お世話人募集！お寺の行事を手伝っていただけるお世話人さまを募集しています。信仰の輪を広げてみませんか？研修旅行などの企画もしております。

総勢百五十名の詠歌衆・稚児行列。犬飼町内をお練りしました。



丹生都比売神社宮司、丹生晃市氏の講演



犬飼町の皆様手作りの紅白餅をまきます！



内吉野結衆寺院の御住職様方によるお勤め



弘法大師 正御影供盛大

去る五月九日

皆さまご存知の通り、今年が高野山が開創されてより千二百年となります。お大師様が白黒二犬に連れられて高野山にたどり着かれてから千二百年。高野山開創はいわば当山の寺史そのものです。その記念の年に、お大師さまのお祭りである正御影供を盛大に修行させて頂くことができました。これもご支援・ご喜捨いただいた皆様のお陰です。心より感謝申し上げます。

お大師さま
のお言葉

宝石の原石は、一見石ころですが磨くことによって輝きだします。ひとの心も同じこと。みな等しく原石をもっていて、それを鍛え磨くことが大切なのです。